

特定非営利活動法人関西国際交流団体協議会

2025 年度(令和 7 年度)

事業計画

(2025 年 4 月 1 日～2026 年 3 月 31 日)

2025 年度の事業方針

本年度の初頭から、アメリカ合衆国ランプ大統領の関税引き上げの問題がクローズアップされ、世界経済が大混乱に陥っています。アメリカ合衆国の関税引き上げの問題は、今後世界経済に与える影響は甚大なものとなりますが、どのような展開になるのか先行きが読めない状況下にあります。また、ウクライナの問題、ガザの問題もさらに深刻化し、ミャンマーの大地震等様々な地域で様々な問題が発生しているのが現況です。一方、国内では、ウクライナ問題に端を発した穀物等の原材料及びエネルギー価格の高騰により物価上昇が加速し、また労働市場のひっ迫感の影響を受け、労働市場が売り手市場となっていることによる、賃金の上昇が加速しています。

2025 年度は、このような世界の動向及び物価上昇の影響を受けながら対応しなければなりません。当協議会としては、収入を増やすために、寄付金の募集の方法の改革、様々な助成金についてのアプローチ、会員の新たな勧誘、ワン・ワールド・フェスティバル(以下「OWF」という。)の効率的な運営等に工夫を凝らしながら対応しなければならない 1 年となります。

当協議会の本来の業務として、会員及び関係先への多彩な情報の受け皿「プラットフォーム」としての役割を担うべく、企業も含めた様々なアクター及びユーザーとのより一層の交流を深め、有用な情報の収集に努め、会員間で共有できる情報の発信に注力したいと考えています。

本協議会が事務局機能を担う OWF は、大阪・関西万博が終了してからの開催となりますので、万博で培ったノウハウ等から着想を得て、OWF の新たな企画を打ち出すことも可能と考えています。また、世界で起きている社会問題について、セミナー・シンポジウム等で積極的に取り上げ、市民の方々と一緒に考え、意見交換ができる「場」を設けることも重要な役割と認識しています。会場となる「梅田スカイビル」は、大阪の名所として外国から多くの観光客が訪れるため、観光客の方々にも OWF の会場で楽しんでいただく企画を考えているところです。また、SDGs に興味を持つ中学生及び高校生のために理解が深まるプログラム及び大学生及び若者が興味を持って参加できるプログラムの策定も重要と考えています。

外国にルーツを持つ子どもたちの支援事業「こどもプラザ」では、今後も小学生及び中学生の受け入れを継続して参ります。中学生の子どもを受け入れると、高校進学に関わる情報が特に重要となり、中学校の進学担当の先生との連携が重要となります。また、在留外国人の急増に伴い、サポートを必要とする子どもたちが急増しているため、大阪市教育委員会事務局、近隣区(生野、平野、東住吉区等)の小学校の校長会との連携を強化し、子どもたちの受け入れをスムーズに行うことができるように体制強化を図ってまいります。

当協議会の財政の立て直しは、喫緊の課題となっています。このため、寄付金の募集、補助金及び助成金の申請、会員の募集等を通じて対応してまいります。

事業別計画概要

1. NGO/NPO間の連携促進事業(会員向け事業)

中間支援団体として、本来の役割を全うすべく、HP 及び SNS を有効に活用しながらさらなる情報発信の強化に取り組んで参ります。特に本協議会が発行するメールマガジンの内容の充実と配信回数増加について前向きに取り組んでまいります。また、会員との連携強化により、積極的な情報提供をお願いし、会員相互の情報及びノウハウの共有を可能にするための情報プラットフォームの構築を、本年度も継続して取り組んでまいります。さらに、行政、学校、企業等の様々なセクターとのネットワークを築くことで、プラットフォームとしての充実をはかり、中間支援団体の役割も担ってまいります。

(1)会員サービスの充実

- ①企業等からの寄付・寄贈などの申出に会員の紹介及び仲介
- ②助成金や賞などへの応募推奨と推薦
- ③会員名簿の発行
- ④セミナー・講演会の開催

(2)会員への情報提供と会員活動への広報協力

- ①会員専用メールリスト・メールマガジン、HP・SNS等を使用した積極的な情報発信
- ②国際交流・国際協力活動に係るシンポジウム等を後援、活動の支援
- ③自主イベント時に会員情報の配布協力、Facebook 等 SNS を使用した情報配信の協力

(3)会員と企業や団体の連携による事業

- ①会員からの運営や企画、事業の相談対応や連携の調整協力
- ②会員との共同セミナー・講演会・イベントの開催
- ③会員の自主活動事業の協働支援
- ④企業との SDGs の目標達成に向けた共同イベントの開催
- ⑤企業と会員及び NPO 等とのセッション及び連携による SDGs の目標達成に向けた活動
- ⑥企業と会員及び NPO 等との今後の協働の在り方についての調査及び研究

2. NGO/NPOと多分野の団体、他機関との連携促進事業

(1)ワン・ワールド・フェスティバル(OWF)

本年度は、第 33 回の開催となります。梅田スカイビルでの 3 回目の開催となりますので、内容的な充実を図ることが重要と考えています。このため、出展ブースへの出展者の選定、セミナー開催の内容の確認等をきめ細かく対応しながら、また一方で、多くの団体に参加いただくことも重要なことですので、バランスの良い対応を心掛けたいと考えているところです。

また、このイベントの中心となる NGO/NPO の出展ブースにおける SDGs 活動の紹介を、より詳しく知りたい学生等の来場者を対象に、特別にプレゼンコーナーを設けるようにしています。現在起こっている世界的な社会問題について、出展者からの動画等の資料を通じて「見て、聞いて、理解する」ことができる動機づけの「場」としての内容の充実をはかりたいと考えています。同時に、出展者同士の交流を促進する意味で「交流会」も開催する予定にしています。

このイベントは、実行委員会方式で実施するため、実行委員会に参画される団体との連携及びコミュニケーションを取りながら、ボランティアとの連携も強化し、様々な関係者との連携を密にして、運営内容の充実及び安全安心を優先した運営に心掛けたいと考えています。

(2)こどもプラザ

こどもプラザ事業は、外国にルーツを持つこどもたち、とくに Newcomer のこどもに対する日本語で学ぶ学習の支援と、地域コミュニティや学校に馴染めないこどもに対する居場所を確保する「こどもプラザ」の施設を通じて、日本語が話せず学校授業についていけない、仲間外れにされる、いじめられる等の困難に直面しているこどもたちを支援するために、2019年11月にスタートしたものです。また、保護者(特に母親)が日本語を話せない、学校の通知等が理解できない等の問題が発生しているため、こどもプラザでは、こどもたちだけではなく、保護者への日本語習得の支援も同時に行っているところです。

現在、中学生のこどもも受け入れを開始していますので、高校進学等の情報収集及び学校との連携強化により、こどもたちの進学についてもサポートすることとしています。

また、地域社会と連携を強化し、日本における在留外国人の生活を支援することも重要と考えています。増加する在留外国人の方々を受入れる地域社会は、従来の発想を変えて、在留外国人を地域社会の一員として受け入れる「ダイバーシティ&インクルージョン」の取り組みが必要となります。地域社会が多文化共生コミュニティとして変化することで、地域社会の活性化につなげることが必要とも考えています。今後とも増加する在留外国人と地域社会とが融合できるように、こどもプラザはつなぎ役としての役割も担っていきます。

3. 国際交流・国際協力・市民活動に関する情報収集と提供事業

NGO/NPOに関する情報の収集・提供事業

目 的 国際交流・国際協力に関する多様な情報収集と提供を行い、市民の意識啓発と活動への参加意識を高める

内 容

- ①政府機関、国際機関等の情報
- ②関西を中心に全国の国際交流・国際協力団体、NGO/NPOの情報収集と提供
- ③NGO/NPOに関する法制度の動きやマネジメントに関する情報収集と提供
- ④ポータルサイトへの情報を頻繁に提供

※当協議会のHP上で、上記のような情報をジャンル分けし、タイムリーに発信すること、PICK UP 情報として、イベントの情報を詳しく紹介するコーナーを設けることで、効率的な情報発信を行っています。また、前年度より引き続き各団体からの掲載の依頼なども新着情報と併せてメールマガジンに掲載し、配信を行ってまいります。

4. 開発教育・市民意識啓発と活動への参加促進事業

目 的 国際交流・国際協力活動、NGO/NPOの活動と役割について理解を促進する目的で、下記の事業を遂行する

内 容

- ①国際理解(世界で起こっている社会問題等)の教育の促進
※OWFの会場で開催されるSDGsの活動を「見て、聞いて、理解する」ことができるプログラムを策定し、大阪府、兵庫県等の教育委員会及び学校との連携により、若者(中学生以上の学生も含む)の学ぶ「場」としての役割を担い、広くPRすることも重要と考えています。
- ②SDGsの市民が参加できるシンポジウムの開催
- ③その他国際交流・国際協力活動に繋がるイベントの自主開催及び他の団体が開催するイベントへの後援及び協力により市民意識啓発を行います。

- ④将来の担い手づくりの一環として、留学生のインターンシップを受け入れ、国際交流・国際協力を繋がる人材育成を実施します。
- ⑤外国にルーツのある学生の就職支援事業(継続調査)
 - ※ダイバーシティを推進する企業との連携により、留学生の日本企業への受け入れ及び NGO/NPO と連携した地域社会への受け入れ等、地域社会の活性化及び多文化共生社会の担い手づくりに尽力する事業。
 - ※この事業はまだ調査の段階であるが、引き続き継続課題として調査等続けることにしています。今後理事会の決裁を得て事業化するかどうかは検討する予定にしています。

5. NGO/NPOの基盤強化事業

NGO/NPO 基盤支援事業

- ①NGO/NPO の基盤強化のために法律や税務等のエキスパートと連携し、NGO/NPO 等の団体がスムーズにサービスを受けることができるシステムを構築しています。
 - ※会員等団体から申し出があれば、協議会から各エキスパート関係者に予約を打診し、その後会員等団体の相談者が直接エキスパートに相談するシステムにて運用しています。

6. 調査研究・提言事業

財源確保・人材の育成による NPO の力量形成を図る目的で遂行する事業

- ①会員及び他の NPO 等の現状調査
 - 国際交流・協力の連合体／中間支援組織としての経験や情報、及び NPO 法人としての視点を活かすとともに当該関係者の実情や声を施策に反映できるように努め、委員会等で得られた情報を事業に活用することで、その貴重な情報を関係者にフィードバックすることを、今後も継続し務めてまいります。
- ②外国にルーツのあるこどもたちの現状報告
 - 外国にルーツのあるこどもたちの現状について、大阪市教育委員会事務局、近隣区(生野、平野、東住吉等)の小学校の校長会へ報告することで、今後のこどもたちの指導に活用していただくように対応してまいります。
- ③一日インフォメーションの開催
 - 「外国人の住みやすい大阪」を考える関係機関等連絡会議(事務局＝大阪国際交流センター)において、外国人向けの相談会「1 日インフォメーションサービス」を本年度も 2 回実施する予定にしています。
- ④関西ボランティアネットワーク会議(KIV-NET)への参加
 - 当協議会がメンバーとして他の参加団体とボランティアについての情報を共有し、今後もボランティアの役割及び動向について情報を収集する予定にしています。